

氏名： 館 かおる (TACHI Kaoru)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター
職名： 教授
学位： 文学修士 (1975 お茶の水女子大学)
専門分野： ジェンダー研究
E-mail： tachi.kaoru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

ジェンダー／規範と制度／東アジア／Web世界／教育
Gender / Norm and System / East Asia / World Wide Web / Education

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・ 館かおる 『『古い衰えることの知』の獲得一男女共同参画センターの新たな役割』『Rim ジャーナル』(城西国際大学ジェンダー・女性学研究所) Vol.10-No.3 (通巻 27 号)』2008 年 12 月 67 - 74 頁
- ・ 増永良文・館かおる他 (共著) 「新しい社会調査法としての検索エンジン結果ページ群の自動収集・分析装置の開発」DEIM (Data Engineering and Information Management) 2009 年 3 月 1-8 頁
- ・ 館かおる他 (共著) 「ワーク・ライフ・バランス関連政策「表彰」と企業経営一福井県における「モデル」化の分析を通して一」『近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」2008 年度報告書』 2009 年 (5 月) 103-121 頁
- ・ 館かおる他編 『湯浅年子公開資料目録』お茶の水女子大学ジェンダー研究センター刊 2009 年 3 月

◆研究内容 / Research Pursuits

1. 21 世紀 COE プログラムとして展開してきた「テクノロジーとジェンダー」の研究を科学研究費補助金 (B) 「社会科学の新しい研究方法論としての統合型ウェブマイニング環境の開発研究」とリンクさせ、研究分担者としてその適用の有効性につき実証を試みた。
2. 21 世紀 COE プログラムとして展開してきた、国内の女性学・ジェンダー研究の一貫として、「介護や老いに関わる知」の獲得の場として男女共同参画センターの新たな役割を考察した。新たに近未来事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」に参加し研究調査を行った。
3. ジェンダー研究センターの研究プロジェクトとして継続してきた「女性自然科学者のパイオニア研究」の成果として『湯浅年子公開資料目録』を編集・刊行し、一方「東アジアの植民地的近代とジェンダー」の研究では、『満州グラフ』の編集・刊行に関与し、ジェンダー研究からの解説をまとめている。関連して、第 2 次世界大戦前後を中心とする日本の「性科学研究」文献の復刻を監修した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

1. <ジェンダー研究センター>の事業として、菅野琴（元駐ネパールユネスコ代表）「国際公務員という仕事」及び「持続可能な開発のための教育におけるジェンダー主流化」、柘植あづみ（明治学院大学教授）「なぜ先端医療をもとめるのか」などの公開講演会を主催。アジア工科大学院大学（AIT）から2名の留学生を受け入れ、本学から4名の院生がAITワークショップに参加する研究交流を実施。
2. <授業、論文研究指導>は、(学部)「ジェンダー論」、(大学院前期課程)「ジェンダー基礎論」「同演習」「開発・ジェンダー論特論」、「国際社会ジェンダー論」、「ジェンダー論特別講義：AITワークショップ」(博士後期課程)「ジェンダー史論Ⅰ」「同演習Ⅱ」を担当。修士論文「岩手におけるウーマンリブのライフストーリー—くおなご—という視座」、「在日クルド人「難民」—国境をまたぐ家族の民族誌」、「視覚障害とセクシュアリティ—身体感覚からの再考」、博士論文「提供精子による人工授精と家族—ドナーの匿名性廃止の法制度化がもたらすもの—」の主指導教員と主査、「フィリピン移住家事労働者の〈帰還〉をめぐる政治—移住者・家族・NGO・国家」の副査を務めた。

◆研究計画

第1に、21世紀COEで開拓した「科学・医療・技術」領域のジェンダー研究という新領域をさらに拓くことを展望している。当面、ウェブ世界の「ジェンダー」の様相を解明する研究方法論の開拓に務め、ウェブ世界の現出が、人間の「知」の生成過程を変容させる、新たな要因を把握することに挑む予定である。

第2に、研究と教育の双方において、女性学・ジェンダー研究を推進することを計画している。また2008年度からワーク・ライフ・バランスの研究調査を開始し、地方都市を調査対象として、ロールモデルの視点から研究を行っている。

第3に、「満洲」というフィールドにおいて、コロニアル・モダニティやコロニアル・サイエンスのジェンダー分析を試みることも継続している。

◆メッセージ

ジェンダー研究は、女性学の成立から数えても、まだ40年の歴史にも満たない新しい学問研究です。しかし、ジェンダー研究は、これからの世界が、20世紀システムでは立ち行かなくなったことから生まれてきました。お茶の水女子大学には、日本の大学で初めて設立された、ジェンダー研究センターという場もあります。21世紀の世界で生きるあなたたちが、ジェンダー研究を学び、まだ誰も知らない新しい世界を拓いて行くことを期待しています。